



人の健康

基本目標

4

未来に向かうこどもの 学びと歩みを支えるまち

急速に技術革新や情報化、グローバル化が進む世界にあって、将来を担う子どもが、変化する時代を生き抜くためには、自信をもって未知なる可能性に挑戦できる力を身につけていくことが重要です。その実現に向け、子どもが確かな学力やコミュニケーション能力、豊かな感性を獲得しつつ、夢や目標を持ちながら、新しい変化を前向きに受け止め、たくましく主体的に行動できるよう、学習環境の充実を図ります。

学校は、自分と異なる価値観、立場や文化、背景を持つ他者と、様々な活動を通して物事をともに学ぶ場です。一人ひとりの多様性を認め、尊重する意識を養うことで、将来にわたり必要とされる、他者とともに生きる社会性を育てていきます。

また、体力は人間の活動の源であり、健康の維持といった身体面のほか、意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっています。将来にわたる健康な体について、身体面と精神面の双方を大切に健やかに育てていきます。

子どもが豊かな人間性を育てるために、異年齢の子どもや様々な知識・経験を持つ人々と地域で触れ合うことも大切な要素の一つであり、学校・家庭・地域の連携をさらに強化することにも取り組みます。

大和市は「健康都市」を実現するために、「未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち」づくりを推進します。

個別
目標

4-1 こどもの広がりのある学びを育む

4-2 こどもの豊かな心・健やかな体を育む



基本目標 1

基本目標 2

基本目標 3

基本目標 4

基本目標 5

基本目標 6

基本目標 7

基本目標 8

個別目標 4-1

こどもの広がりのある学びを 育む

現状と課題

- 技術革新やグローバル化が急速に進展する中、子どもが新しい時代を生きていくための力を育むことにつながる教育が求められます。
- 基礎的な学力や学習習慣の定着などと併せ、時代や社会の変遷に応じた ICT * 機器等を活用し、教育を行うことが求められます。
- 障がいがある子どもや、支援を要する子どもの増加に伴い、教育的支援のニーズが増大、多様化しており、一人ひとりの状況に応じた可能性を伸ばす教育が求められるとともに、全ての子どもが互いの違いを理解しながら学び合える環境整備の重要性が高まっています。
- 社会の国際化が進む中で、子どもが英語等の語学力を身につけることや、外国への関心と理解を高めること、さらには、日本の歴史や伝統、文化等について理解を深めることも重要です。また、外国につながる子ども * と家族が円滑な日常生活を送るための支援も求められます。

取り組み方針

- 子どもの基礎的な学力の定着をめざすとともに、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」を明確にし、「主体的・対話的で深い学び*」の実現にむけて、子どもが自ら成長する力を育む学校教育を推進します。
- 子どもの学びを広げるため、知識の獲得や言語能力の向上に寄与する読書を推進していきます。また、学校図書館や情報通信ネットワークなどを適切に活用し、調べる学習の充実を図ります。
- 国際社会での活躍の礎となる英語力や国際感覚を育むとともに、ICT 機器等を活用しながら、時代に即した先進的な情報教育を推進します。
- 大和市特別教育支援センターでは、通級指導教室等により子どもの特性に応じた支援を行うとともに、専門家が保護者などからの相談に応じるほか、教職員の指導力向上に資する研修施設の役割も果たし、特別支援教育に関する拠点施設として、総合的な支援を行います。
- 外国につながる子どもに対し、日本語の言語能力など、教育的ニーズに応じた適切な学習支援を充実し、日本の学校生活へのスムーズな移行を支援します。
- 一人ひとりの学びを大切にしたいきめ細かい指導を推進するとともに、教員の実践力の向上、学校組織としての教育力の強化を図る取り組みを支えます。
- 学校施設や各種教材等の計画的な整備・更新と、学校の適正規模の確保を図り、快適な学習環境の提供を推進します。

* ICT……Information and Communication Technology（情報通信技術）の略です。

* 外国につながる子ども……国籍だけでなく、言語や文化、家族など、何らかの形で外国にルーツを持つ子どもを指します。

* 主体的・対話的で深い学び……平成29年に改訂された学習指導要領の中で示された、子どもに必要な資質・能力を育むための授業改善の視点です。

めざす成果 1
4-1-

こどもが確かな学力を身につけている

一人ひとりの子どもが、未来に向かうための確かな学力を身につけています。

成果を計る主な指標		現状値	中間目標値 (2021)	最終目標値 (2023)
基礎的・基本的な学習内容の習得を計る振り返り調査*の通過率	小3～小6	60.3% (2018)	72.0%	80.0%
	中1～中2	57.1% (2018)	70.9%	80.0%
児童・生徒の1か月の平均読書冊数	小4～小6	14.6冊 (2017)	15.4冊	15.8冊
	中1～中3	4.4冊 (2017)	5.2冊	5.6冊
「図書館を使った調べる学習コンクール」の応募数		6,992人 (2018)	7,200人	7,340人



関連するめざす成果
 ・7-1-1 読書をする人が増えている (p.83)
 ・7-1-2 学びに関わる人が増えている (p.83)

めざす成果 2
4-1-

こどもが個性・能力にあった教育を受けている

子どもの個性や能力に応じた教育の機会が用意され、障がいの有無や国籍の違いなどに関わらず、子どもが生き生きと活動しています。

成果を計る主な指標	現状値	中間目標値 (2021)	最終目標値 (2023)
子どもの個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合	37.5% (2016)	42.5%	44.5%
特別支援教育センター*で扱った特別支援や発達に関する保護者や学校からの延べ相談件数	201件 (2017)	240件	260件



関連するめざす成果
 ・2-1-2 障がいのある方が地域の中で自立した生活を送っている (p.39)
 ・8-1-3 地域の中で多文化共生が行われている (p.92)



学校図書館



パソコン教室

*振り返り調査……これまでの学習内容の定着度を図るために、過去に授業で学んだ国語や算数等について、どれくらい正解できるか調査するものです。
 *特別支援教育センター……支援を必要とする児童・生徒と、その保護者への相談や指導、教職員の研修などに総合的に取り組んでいくための施設です。

基本目標 1

基本目標 2

基本目標 3

基本目標 4

基本目標 5

基本目標 6

基本目標 7

基本目標 8



基本目標 1

基本目標 2

基本目標 3

基本目標 4

基本目標 5

基本目標 6

基本目標 7

基本目標 8

個別目標 4-2

こどもの豊かな心・ 健やかな体を育む

現状と課題

- 子どもの健全な心と体の成長のためには、体を動かす外遊びのほか、バランスの取れた食事や十分な睡眠など、規則正しい生活習慣を身につけることが大切です。
- 地震や火災、交通事故、現代的な課題である薬物や SNS に関連した犯罪等、子どもは様々な危険に遭遇する可能性があり、子どもが自ら身を守る力を獲得することが大切です。
- インターネット等による仮想現実が溢れる現代社会においては、身近な人との関わりの中で、様々な体験を通して「思いやりの心」を、また、自然や芸術に触れる体験を通し「豊かな感性」を育むことが大切です。
- 不登校やいじめの原因は、学校での人間関係や家庭環境によることが多く、未然防止に向けては、学校が子ども一人ひとりの状況をきめ細かく把握して対応するとともに、地域や家庭との連携を深めながら総合的に取り組んでいくことが必要です。
- 子どもの人間性や社会性を豊かに育むためには、異年齢の子どもや様々な知識・経験を持つ人々と地域で触れ合うことも重要であり、多様な関わり合いの中から様々なことを学べる環境を整えることが求められます。



学校給食展

取り組み方針

- 子どもが、心身ともに健康な学校生活を送り、さらに、生涯の財産となる健康を保持増進することができるよう、保健管理の取り組みを充実するとともに、健康教育を推進します。
- 成長段階に応じて安全で栄養バランスのとれた、おいしい学校給食を提供するとともに、子どもや保護者の食に対する知識や意識の向上を図るために、学校給食をモデルとした食育を推進します。
- 子どもが関わる事故の防止に向け、通学路等の安全確保に努めるとともに、交通安全教室などを通し、広く意識啓発を行います。
- 子どもが自ら危険から身を守れるようにしていくため、命の大切さや安全についての理解を深めるとともに、関係する情報を正しく判断し、いざという時に適切な行動がとれるようにする安全教育を推進します。
- いじめや不登校も含めた児童生徒指導上の諸問題について、子ども一人ひとりに丁寧に関わり、未然防止と早期発見、早期解決に取り組みます。
- 子どもが日常的なコミュニケーションや、人との関係を円滑にするルール・マナー等を大切にするとともに、生き方や社会の在り方について深く考えることができるよう、社会性を育む道徳教育を推進します。
- 学校に行きたくても行けない子どもたちのサポートを行うため、不登校等の児童生徒が通いやすい居場所となる教育支援教室「まほろば教室」を活用し、子ども一人ひとりにあった多様な教育活動を推進します。
- 子どもの感性や情緒を豊かにし、想像力を育む読書活動について、学校図書館と市の図書館との連携なども図りながら、より一層推進します。また、創造力を育む文化活動などを推進し、豊かな人間性を育みます。
- 学校・家庭・地域が互いに協力し合いながら、子どもの成長を支える取り組みを推進します。
- 異なる年齢の子どもたちがふれあい、様々な体験ができるよう、機会の充実に努めるとともに、放課後子ども教室をはじめとした、安全で楽しい子どもの居場所の確保に取り組みます。





基本目標 1

基本目標 2

基本目標 3

基本目標 4

基本目標 5

基本目標 6

基本目標 7

基本目標 8

めざす成果 1 4-2-

心身ともに健康に 学校生活を送ることが できている

児童・生徒の健康管理や栄養バランスの取れた給食の提供などにより、心身の健全な発達が支えられています。

成果を計る主な指標		現状値	中間目標値 (2021)	最終目標値 (2023)
健康であるために運動が大切だと考えると答えた児童生徒の割合	小4～小6	95.9% (2018)	98.0%	100.0%
	中1～中3	95.0% (2018)	98.0%	100.0%
小学校の給食残食率（野菜）		10.0% (2017)	8.7%	8.0%
給食における地産地消の割合		20.2% (2017)	24.0%	26.0%
学校 PS メール*世帯普及率		89.9% (2017)	93.0%	95.0%
子どもの交通事故の市内発生件数		73件 (2017)	66件	62件

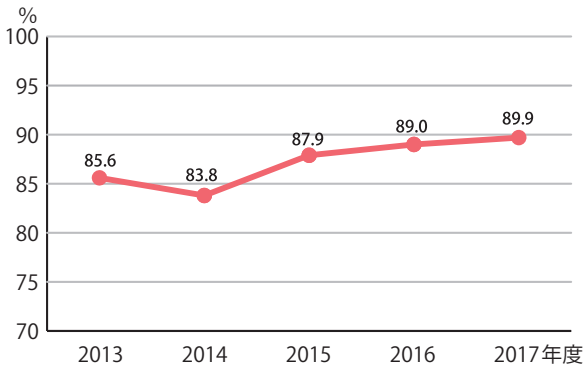


関連する
めざす成果

- ・1-1-1 一人ひとりが健康づくりに取り組み元気で暮らしている (p.32)
- ・1-1-2 心身の健康を維持・増進するための体制が整っている (p.32)
- ・7-3-1 スポーツを楽しむ人が増えている (p.87)

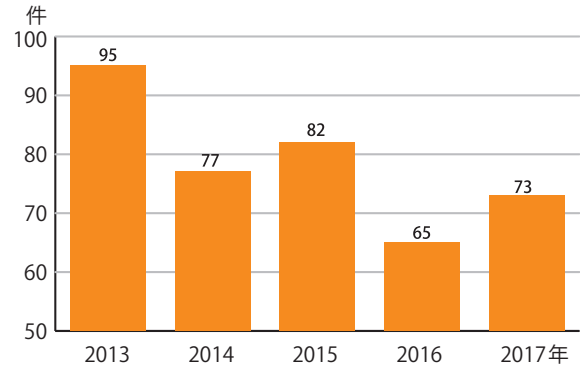
学校 PS メール世帯普及率の推移

資料：学校教育課（各年度集計）



子どもの交通事故の市内発生件数

資料：神奈川県警（各年集計）



*学校 PS メール……学校から保護者に向けて、犯罪、不審者、自然災害の情報、登下校時間の変更や行事のお知らせなどを伝達するメール配信サービスのことです。

めざす成果 4-2-2

多様性を尊重し
他者とともに
生きるための社会性が
育っている

不登校やいじめに関する支援体制が整い、未然防止や早期対応による解決が進んでおり、子どもが毎日安心して学校に通っています。

成果を計る主な指標		現状値	中間目標値 (2021)	最終目標値 (2023)
いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況	小	46.4% (2017)	49.2%	50.6%
	中	39.5% (2017)	44.7%	47.3%
いじめ問題の解消率	小	85.4% (2017)	95.0%	100.0%
	中	93.8% (2017)	98.0%	100.0%
自分には良いところがあると思うと答えた児童生徒の割合	小4～小6	65.4% (2018)	71.4%	75.4%
	中1～中3	67.8% (2018)	73.8%	77.8%



関連するめざす成果
 ・8-1-1 あらゆる差別がなくすべての人が互いの人権を尊重し合っている (p.91)
 ・8-1-3 地域の中で多文化共生が行われている (p.92)

めざす成果 4-2-3

こどもが豊かな感性を
身につけている

学校や地域の中で、多様な人との関わり合いや自然・芸術に触れる体験を通して、子どもが豊かな感性を身につけています。

成果を計る主な指標	現状値	中間目標値 (2021)	最終目標値 (2023)
美術館等で対話による美術鑑賞を行った児童が美術作品に興味を持った割合	80.6% (2018)	83.6%	85.6%
放課後子ども教室参加率	8.6% (2017)	11.0%	12.0%
児童館の1日あたりの平均利用者数(全22館)	415人 (2017)	432人	440人
中高生ボランティア参加者数	83人 (2017)	130人	135人



関連するめざす成果
 ・7-1-1 読書をする人が増えている (p.83)
 ・7-2-1 文化や芸術に親しむ人が増えている (p.85)
 ・7-3-1 スポーツを楽しむ人が増えている (p.87)

基本目標 1

基本目標 2

基本目標 3

基本目標 4

基本目標 5

基本目標 6

基本目標 7

基本目標 8

